

□官侍等束帶供奉雜役長以下無官侍兼日口催當日參集刻限結番次第通夜祇候檢知行事宮司同前自御所申出物、箏火取御鏡名香口等廳存例皆催儲之內女官持參白粉散之廳辨備衝重進大盤所又居侍所饗如例廳相折云乞巧奠料米五石四斗油三升代米七日料米廿四石二斗色目同五月別納相折云御節供料米廿石

承保三年乞巧奠高陽院內裏儀御所南面也准彼年例所供奉也又可爲後代例

〔長秋記〕長承二年七月七日庚申自女院被仰云七月七日當庚申時於乞巧奠前不論男女七人會同各書舊歌百首都合爲一卷用歌占如指不違云々早可書進者此事未聞然而依仰奠之於其前書女房二人大夫公尼也花見天男五人師任師仲舞人忠方男近方男當時依來合也事畢結調納置後知此事之人語云伴歌等都合作造紙一帖也自其夜至明年七夕納置東向戶上七夕取出問占也若其間爲風爲鼠被吹落者不待七夕開之問事例事也各百首中有同歌又無事妨云々

〔兵範記〕仁安三年七月七日丙寅內裏御遊具於清涼殿東底佳例被涼於東庭乞巧奠如例藏人基光奉行於桂芳坊御服犬頭糸奉借織女如例白河殿御節供家司左衛門佐信基調進之

〔增鏡〕秋のみ山七月二〇元享七年乞巧奠いつのとしよりも御心○後醍醐とめてかねてより人々に歌もめされもの、ねども、こゝろみさせ給ふ、その夜は例の玄象ひかせたまふ人々の所作ありし作文にかはらず、笛筆築などは殿上人どもなり、板の程にさぶらひてつかまつる中宮もうへの御局にまうのぼらせ給ふ、御すのうちに琴琵琶あまた有き、播磨の守ながきよの女いまは左大臣の北方にて三位殿といふも箏ひかれり、宮の御方のはりまの内侍もおなじく琴ひきけるとかや、琵琶は權大納言の三位どの、帥藤太納言女いみじき上手におはすればめでたうおもしろし、蘇香萬秋樂のこるてなく、いく返となくつくされたる、あけがたは身にしむばかり、わかき人々めであへり、さらでだに秋の初風はげにそよろさむきならひをことはりにや、御遊